# Title:「アジアの空に水母が揺れる」

羽立　孝
1981年鹿児島生まれ。2005年から水問題を撮り始め、この海外FWでも水の環境問題を続けて撮り進めて行く。

最近のエントリー
- 撮影風景 (2006.06.26)
- In my life (2006.06.25)
- そんなラージギール (2006.06.22)
- 遠かったラージギール (2006.06.20)

アーカイブ
- February 2007
- January 2007
- December 2006
- November 2006
- October 2006
- September 2006
- August 2006
- July 2006
- June 2006
- May 2006
- April 2006
- March 2006

投稿カレンダー

カテゴリー一覧
- Bangkok
- Hanoi
- Ho-Chi-Minh
- INDIA
- Malaysia
- SiemReap
- Taiwan
- 石垣島

ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE

OLYMPUS
Your Vision, Our Future

RSS 2.0



06.06.26

## 撮影風景

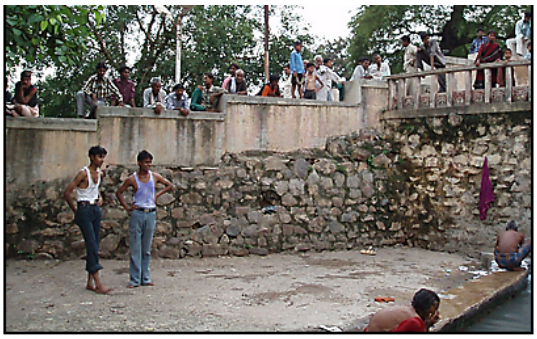
Tweet　　Check

このフィールドワークでで唯一の大型カメラを使って撮影している私ですが
今回はその撮影の様子を掻い摘んでお伝えしようと思います。
コルカタにて

実際、こんなにいるのかと自分で驚きました。普段は荷物とピントグラスしか見てないのでびっくり。

そうやっても見えないよ！

こんなところで撮影していると、なんと…



いつのまにか後ろにはギャラリーが…

大型カメラ実習

遠くに人だかりが！？

実際は露出を測ってました。

まあこんな感じです。いやぁ大変な撮影だったんですね。ギャラリーが少ないとたまにピントグラスを覗かせてあげることもあるのですが、一番の待ったのは何で逆様に写るんだって聞かれたことです。日本語では答えられても英語では説明できずに絶句してしまいました。英語だけはやっぱり話せるようになりたいですね。

カテゴリ：INDIA

post by 羽立　孝 | 日時: 2006.06.26 | パーマリンク | コメント (17)



06.06.25

## In my life

Tweet Check

とある日の夕方、デリーに突然雨が降った。

雨の冷たさよりもまず痛みや重みを感じる雨だった

すぐさま近くのレストランに入り、多少お腹もすいていたのでそのまま食事を取る事にした。

コルカタでもそうだったのが、夕刻に激しい雨が降ることは間々あることだった。
だから特に驚きもせず今回もすぐに止むだろうとふんでいたら、やはり食事半ばにして雨は既に止んでいた。

食事を済ませ、通りに出ると少し少なくなっていた喧騒もまた息を吹き返していた。
しばらく通りを歩き、以前にも行った事のある屋上レストランで少しの間お茶をした。

インドというのはとても空気が汚い。

車の排気ガスや砂埃に留まらず、電気が安定してないのだろう故に自家発電をしている場所が多くそのエンジンからもまた白煙や黒煙の排気ガスが噴出されていた。私はこの排気ガスに含まれるだろう金属の粒子が苦手でインドではもっぱら鼻炎だった。空気の汚さは空を見ていてもわかる。常にもやがかかって空の青は霞んでいる。
　でもこの日の空は雨で大気の埃が地面に流されたのかインドで見た空で一番綺麗だった。
この空間は地上とは別世界なんだ。

さて、地上に降りたらインド人と格闘だ。
NO RIKSHAW! NO CHANGE MONEY! NO GUIDE!

カテゴリ：INDIA
post by 羽立　孝 | 日時: 2006.06.25 | パーマリンク | コメント (4)

06.06.22

## そんなラージギール

Tweet　　Check

前回書いた5件目に到着したホテル。

そう、そのど真ん中にある白い建物ですよ！
ロンプラには載ってたが掲載内容と若干違いがあった
紹介されている内容によるとエアコンがなくて低中級ホテル的な位置づけだったように記憶して
いるが部屋のランクによりエアコンとホットシャワー付きの部屋まで選ぶ事が出来る。
ホテルの名前はシッダルタホテル。
ここで１日に３回飲んでいたチャイはインドで飲んだチャイの中で特においしかったです。

関係者っぽい人達。

真ん中の堂々とした人は部外者です。
横の二人はホテルのハウスキーパー達。
真ん中の人はその昔ナーランダ大学で日本語を勉強していた為とても日本語が上手だった。
いつもニコニコ。

ちなみにここのホテルの社長も日本語が達者な上にとてもいい人でした。
自己主張の著しいように感じる事が多々あるインドにおいて日本的な譲り合いの精神を経験した
唯一の場所でした。
移動は大変だったけど、結構居心地のいい滞在になった。

Downtown

主な移動手段は馬車。
この町にはオートリクシャーなんて物はない。
必要な物はホテルから馬車で１５分圏内
それ以上先に行ったらそこはきっとラージギールではない。
もしそこで「ここはどこですか？」
と聞いたらきっと山の名前とかが最初に出てくる筈だ。そんな場所でした。

カテゴリ：INDIA
post by 羽立　孝 | 日時: 2006.06.22 | パーマリンク | コメント (16)



06.06.20

## 遠かったラージギール

Tweet　　Check

６月７日水曜日、Poorva Express にてコルカタからガヤに向かう。

コルカタを出た時には雲がかかっていたが、雨は降っていなかった。しかし次第にガヤが近くな
るにつれて雨脚が強くなる。

この日の内にラージギールという仏教の町にバスで移動予定だったが予定の見直しを余儀なくさ
れた。しかも予定通りと言ってはなんだが、電車の到着時間は一時間程遅れてしまった。このま
まラージギールにバスで向かうとそこに到着する頃には真夜中になってしまうため、この日はガ
ヤに一泊する事にした。

ガヤのプラットホーム

そして次の日、この日も雨。前日よりもひどくなった雨。

ラージギールには"インターネット"がないためネットカフェを探すも中々巡り会えずにチェックアウトの時間、そして出発の時間を迎える。ホテルでラージギール行きのバスがあるバス停を聞き、その情報をロンプラと重ね合わせ、行き先をホテルの受付の人を介してオートリクシャーの運転手に伝える。何でここまでしたかというと

こんな日に立ち往生なんて考えるだけで滅入ってしまう事でしょう。こんな日に行き当たりばったりは出来ないです。

バス停に着き、すぐにラージギール方面に行くバスを見つける。
バスは普通の大きい綺麗目のバスのなので安心して荷物を載せ、乗り込む。

乗り込んでから出発するまで３０分、エアコンはなく雨のため窓を開ける人も少ない。

蒸し暑く汗がだらだら流れる。

ようやく出発し、多少天気も回復したため皆が窓を開けだす。
やっと地獄から解放されたと思った、出発から３０分後の１３時。

「パンッッッッッッ！！！！」

最初に思ったのは「銃声？」だった。そのくらい大きな音だった。そして車が次第に速度を落としていく。
「あっ、パンクかな？」そう思った時には車が停車し、男どもが外に降りていく。

タイヤが大きかったため、そしてパンクしたタイヤの位置に一番近い窓付近にいた為より大きな音に聞こえたんだなと確信した。

タイヤをガヤから取り寄せて、タイヤを交換。再出発するまで３０分かかった。

順調に移動していたのも束の間、終点でもないのに皆がバスを降りていく。

どうも次のバスに乗り換えないと行けないらしい。

なるほど、バスの先には橋がありその入り口の真ん中には杭が打ってあった。そのため橋を歩いて渡らなければならなかった。これが晴れた日であれば全ての荷物を持って１キロぐらい簡単に歩くのだが、雨脚はこの日最悪の強さ。極めつけのモンスーン。

実際、インドの新聞に大雨の様子が写真付きで載っていたのでインド人もびっくり！な大雨だったのだろう。その雨の中の行進は台風の中で傘もささずに散歩するように馬鹿げているように思えた(これをやると途中からナチュラルハイになりますね)。

荷物は自転車に荷台をつけたポーターが運んでくれたのだが荷物の確認、及び雨の中財布を出さなければならない憂鬱に胸が重くなる。

ようやくバスに辿り着いたものの先ほどのバスよりも一回り小さく、中は人で溢れ屋根にまで及んでいた。よく写真で目にする光景の中に自分が存在する。

荷物が大分濡れたので諦めがついたのだろうか、少しテンションがおかしくなり(前述の通り！？)仲良くなったインド人グループとインディアンジョークとジャパニーズジョークを交わしながら笑っていた。でも実際はそんな余裕も力も残ってはいない。燃え尽きそうなロウソクのようだったと振り返る。

ラージギールに着いてホテルを探す。結局５件目のホテルにした。

ひどく疲れていたので電気とホットシャワーがとても恋しかった、５件目のシッダルタホテルはそれを満たしてくれた。１泊７５０ルピー、この町ではかなり高い方のホテルであった。ここでやっとずぶ濡れになったバックパックや種々の荷物を確認。バッグはとことん濡れていたが致命的なもの(フィルム、パソコン)は濡れていなかったので一安心。

結局、この雨で全ての服を洗わざるを得なくなり、バッグや靴を乾かし、濡れる前の状態に戻るまでも二日かかってしまった。今までで一番疲れた一日でした。ちゃんちゃん。

カテゴリ：INDIA
post by 羽立　孝 | 日時: 2006.06.20 | パーマリンク | コメント (4)



06.06.14

## 夕立とカーンと広葉樹

Tweet　　Check

コルカタで撮影の下見に出かけたとある午後に私はカーンと出会った。

カーンは容姿端麗で身なりもきちんとしていて普通に渋谷を歩いていても違和感がないような２２歳の青年だった。

彼は日本にも行ったことがあり、千葉の船橋に行ったことがあるらしい、しかもディズニーランドにも。私は撮影以外ではディズニーランドに行ったことはないのだが。。。

彼にお金持ちだね、と聞くと彼は親父がリッチなんだ。と答えられその通りだな、なんて感じた。自分の境遇にも似たようなものがある。今ここインドにいられるのは両親のおかげなわけで、彼もしっかりとそういった認識をしているんだろうなと思った。

日本のこと、それに動物の話や神様の話など色々なことを聞かれ英語で答える。こちらから何も質問してないことに気づいてふと質問した。

「パキスタンをどう思う？」

ふとした質問にしてはいやに重くないかい！？そんなことを思いながらも彼は真剣に答えてくれた。

パキスタンの問題は国の問題であり、軍の問題だと思うよ。僕はすべての国が好きだしそこに住む人たちが好きだ。

あまりにも非の打ち所がなかったので信じるが難しかった。でもなんとなくこの青年が好きだったから信じようと思った。

そんな話をしていたら突然の夕立に襲われた。来た道を歩いてかえろうとするが雨は強くなるばかり、なぜかカーンも一緒に着いて来るので一緒に大きな広葉樹の木の下で雨宿りをした、彼に上げたマルボロ、二人で暇つぶし、彼は木の枝で石を叩きつまらなそうに、そして遠く見ていた。
雨は強さを求めるばかり、先に業を煮やしたのは俺だった。タクシーを使おうか？彼はちょっと嬉しそうだった。ホテルまでタクシーを使う。今まで一度も目一たで走ってもらったことがなかったタクシーがカーンが乗っているからかメーターで動いてくれた。
その途中で彼に聞いてみた、彼女は居るの？

彼はにやにやしながら彼女は３人いるよ、けど週末はまだ見ぬ人のために空けてあるんだ。私は彼のひざをこつっと叩いた、このすけこましが！！(笑)

彼はパナラシ出身で今現在はいろいろな場所を旅しているらしい。もうすぐしたら彼はカトマンズに向かうらしい。私もカトマンズに行くがその日は重なることはない。
でも彼とはもう一度会いたいと思った。メールアドレスを交換しようとしたが持っていないらしい。実際、パナラシのネット環境を目の当たりにすると持ってないのも仕方ないのかな？と感じてしまう。電話番号を交換したが私は電話が嫌いだから用件がないとかけない。彼からもかかってこない。国際携帯だからしょうがないのかな？
英語をもっとうまく喋れないと、そう思った。英語で無駄話の一つでもしてみたいもんだ。
続きを読む "夕立とカーンと広葉樹" »

カテゴリ：
post by 羽立　孝 | 日時: 2006.06.14 | パーマリンク | コメント (2)



06.06.06

## Chennai

Tweet　　Check

始めてのインド。そう、この旅で始めて「始めて」を感じた。

私は以前にも何度か東南アジア(カンボジア及びタイ)には行った事があったので特別な新鮮さはなかった。
目紛しい雑踏や車の騒音、そして強い香草の匂い。
このインドでは今までいた東南アジアとは違った空気を感じる事が出来る。

オンボロな車から出る消化不良の排気ガスは変わらないけれど、常に肌につくスパイスの匂いや湿った空気。
東南アジアもジメジメしていなかったわけではないが、インドの湿気は異質な気がする。
汚れた空気と相まってるのだろうか、そんなことを考えながらインドの憂鬱と対峙する。

雑踏に疲れ出逢った人の見えない真意に疲れるけれど

工事中の場所にちょっと足を踏み入れた時に話した二人

「気をつけてろよ」

「私も撮って♪」

このような普通の会話が出来る事が余計にとても嬉しく感じる。

コルカタまでは飛行機移動だったが、これからは電車移動になる。
バックパックが１８キロ、スーツケースが１９キロ、三脚が７キロ。
気合いをもう一捻りしていきます。

カテゴリ：INDIA
post by 羽立　孝 | 日時: 2006.06.06 | パーマリンク | コメント (5)

Copyright 2007 All rights reserved NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE

powered by OLYMPUS